

—人工呼吸関連機器：ユーザーのレポート—

ザビーナオプション・ナースコール連携とベントビュー
東京医科大学病院 臨床工学センター
伊藤 進

一般病棟での人工呼吸器使用時では、機器本体からのアラーム音だけでは、確実にアラームを確認できない状況が発生する。今回、初めての試みで人工呼吸器からのアラームをナースコールに連動させてみようとした。選択した人工呼吸器はドレーゲル社製ザビーナで、一般病棟向けの機器である。標準でナースコール出力端子が装備されており、接続は通常のナースコールケーブルを専用端子に接合させるだけで使用できる。(写真)

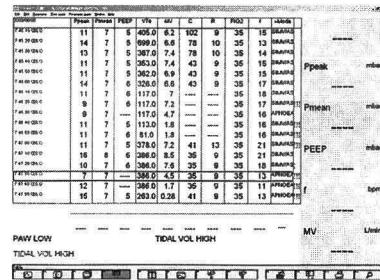


当院のナースコールは、院内 PHS 端末と連携しているため、アラーム発生時は、スタッフの居場所を問わず、PHS 端末から病室内のアラーム音が聞こえ、また同時に病室番号が表示される。ナースコールとアラームを連携することで、より迅速に、より確実にアラームが確認でき安全性が向上したと考える。

ナースコール連携時の注意点として、あくまでも補助的なシステムであることを認識し、観察は従来同様に行いナースコール連携に頼りきらうこと。また不必要的アラームが頻回であると、他の業務に支障をきたし実用性が無くなってしまうが、ザビーナは、auto flow の機能により、必要最低限の圧力で換気量を維持するよう制御されるので、状態が急変しないかぎり換気量は保障されることや、吸・呼気相を選ばず、自発呼吸ができるように制御されているため、ファイティングは発生しない。サクションなどの処置時はアラームを

キャンセルさせる機能もあるので、不必要的アラームの頻度は少ないと考えた、そのような機能を有することもナースコールとアラーム連携には必要な要素である。

それでもアラーム発生が頻回な場合は、適正な呼吸設定、アラーム設定を再検討する必要がある。当院では、そのような場合、オプションの Vent View というソフトを使用して、現在や過去の換気データ、P-V 曲線、F-V 曲線、アラーム発生ログなどを参考に検討している。(図表)



Vent View は標準装備ではないが、一台パソコンにソフトを入れて、必要時だけ接続し使用している。1秒ごとの換気データとアラームログが残るため、スタッフが観察していない状況でのアラーム発生原因が把握しやすい。換気データが、パソコンで受け取れるので、LAN を利用して将来的には管理室で院内の呼吸器の状況を把握できるようなシステムへの可能性も期待している。

今回はオプションを利用して、人工呼吸器の安全使用に役立てたが、今後も機器の性能を引き出し、安全で確実な呼吸管理に結び付けたいと考える。



Continuous care

www.draeger-medical.com

without compromise

人工呼吸器 ザビーナ

ドレーゲル・メディカルの人工呼吸器ザビーナは、リカバリー、急性期医療、病棟、搬送と、使用する場所を選ばない人工呼吸器です。内蔵されたプロアタービンとバッテリーにより、電源や配管のない場所でも高度な人工呼吸管理が可能です。わかりやすいデザインと基本的な表示機能は、小児から成人まで、患者を問わず使用できる性能と機能を提供します。使用状況に合わせたアップグレードができますので、シンプルな人工呼吸器としての使用から、AutoFlow™/BIPAPのようなドレーゲル独自の自発呼吸を保護・促進する換気、あるいはマスク換気を組み合わせた器機として構成することもできます。

ザビーナが、皆様の医療環境のさらなる改善をお手伝いいたします。

輸入元

ドレーゲル・メディカル ジャパン株式会社
東京都江東区富岡 2-4-10 〒135-0047
☎ 03(5245)2141

総販売元

日本光電工業株式会社
東京都新宿区西落合1-31-4 〒161-8560
☎ 03(5996)8000

Dräger medical
A Dräger and Siemens Company

Because you care